

# お山道をたどる ①

古写真を通じて、富士登山道を通ります。

第一回は「金鳥居」です。



写真の鳥居は明治十一年の再建です。戦時中に供出されたので、現在のものとは異なります。鳥居下に明治三十二年創業の「都留馬車鉄道」の軌道が見えます。電信柱はまだありません。宮川電灯株式会社の操業は大正二年で、この絵葉書はそれ以前のもので、恐らく現存する「金鳥居」の絵ガキとしては最古の物と思われる。道路脇の水路はむき出しのままです。

『都留馬車鉄道』の客車が見えます。その前を荷馬車が横切っています。電信柱が立ち、水路の蓋がされました。左下には麦わら帽子売りが見えますので、夏の写真でしょうか。



現在の金鳥居周辺です。電線は埋設されたので、電柱はなくなりました。

## 敬神の道標(文献紹介) ①

本教の前身である「富士一山教会」は御教祖安野半大人が富士講を統合されたものでありますので、皆様にも富士山に関する信仰に御関心のある方が多いことと存じます。こうした信仰の歴史については、教会教師の方々に御

尋ねるのが一番ですが、ご自身で研究されたいという御希望もあるやに聞いております。そこで、この欄ではご研究の参考となるような文献をご紹介します。よろしくお願いいたします。

### 富士の信仰の基本文献 一

#### ① 『富士の研究』全6冊

昭和三年から四年にかけて官幣大社富士浅間神社社務所編纂により東京古今書院から刊行された。

六巻の内容は、一富士の歴史

二浅間神社の歴史 三富士の信仰 四富士の文学・美術・遺跡

五富士の地理と地質 六富士の動物・植物。それぞれが四百頁を超える大作で、当時の富士に関する叡智の結晶と言える。富士山に関する研究では現在でもこれに勝る集大成はないといっても過言ではない。特に井野邊茂雄東京帝国大学史料編纂官による一巻と二巻は、その内容の充実度からいっても富士の研究においては欠くことできない名著である。昭和四十八年に名著出版から限定五百部で再刊されたが、現在では購入不可。時折古書店で見かけるが、十万円前後の高値で取引されている。後出の研究書のほぼ全てのネタ本であるといっても良い。

#### ② 『浅間文書纂』

『富士の研究』編纂の過程で収集された浅間神社に係する資料を整理刊行したもの。昭和六年刊行、昭和四十八年名著刊行会再刊。『富士の研究』では収録しきれなかった原資料を家別に掲載している。富士山頂で発見された経塚文書が収録されている。

#### ③ 『浅間神社資料』

右を受けて昭和九年に刊行年された。昭和四十九年名著出版再刊。「文書纂」が写本、自筆文書等のオリジナル文献が主であるのに対し、本書は通史、紀行、文学、伝説といった普遍的なものも多く収録されている。浅間神社の名称の由来、祭神である木花佐久耶姫命に関する文献などは、本書に網羅されているので、研究者の論考を読む際には大いに参考となる。

今回は「富士講」について書かれた研究書を中心に紹介いたします。

鹿児島教区で神道祭式作法講習会実施  
 ～本教の歴史と教師の自覚を再認識～

今年度から、本部の研修以外にも教師補命制度が設けられました。これを受け、四月二十三日から二十五日の三日間にわたって、桜島を眼前にするホテルウエルビューカゴシマを会場に、鹿児島教区での「神道祭式作法研修会」が開催されました。

五十二名の参加者は教区内の教会長から初めて笏を持つ初心者までお立場はさまざまでしたが、皆様一様に熱心な取り組みをされました。



教区巡教で鹿児島にお入りになられていた管長様からは、本教の教義についての御講義を賜り、教嗣様からは教団の成り立ちについての御講義をいただきました。

また、山縣祭事師範・矢島祭典課長の熱心な指導に、一同汗をかきながら一生懸命に祭式作法を学ばれ、教師としての自覚を再認識されました。

- ・写真上、本教の歴史と教えについて講義される管長様。
- ・写真中、管長様のお話を熱心に聴く緊張感いっぱいの講習生。52名の老若男女が一生懸命儀式作法の勉強をしました。
- ・写真下、管長様教嗣様、講師の先生方と一緒に記念撮影にて笑顔の皆さん。



富士登拝修行のご案内

七月十六日から十九日に亘り、恒例の「御神實（みかむざね）ご登岳」が左記のとおり実施されます。詳細は後日郵送でご案内します。富士山天拝宮、富士頂上への登拝修行にご参加下さい。

記

御神實登拝修行日程

※七月十六日（金）

午後一時 本部にて出立祭  
 富士吉田北口本宮浅間神社参拝  
 御師「大國屋」泊

※七月十七日（土）

扶桑教元祠にて、登拝奉告祭  
 富士山五合目へ登拝開始  
 八合目「天拝宮」着到・天拝神事  
 謹修

※七月十八日（日）

頂上登拝・天拝神事謹修  
 下山  
 河口湖ホテル「湖南荘」で下  
 山祝・泊

※七月十九日（海の日）

富士西麓人穴参拝  
 本部着

大教庁からのお知らせ

・扶桑教の「ホームページ」  
 を開設しました。

かねてより教内皆さまから「要望のありました、本教ホームページの開設が実現しました。」

インターネットで「神道扶桑教」と入力すれば、本部のホームページに繋がります。まだまだ不十分ですが今後、一層内容を充実させて行きたいと思えます。ぜひご覧いただき、御意見をお寄せください。

アドレスは、左の通りです。

「扶桑教本部」HP

<http://www.fusokyo.org/>

・「扶桑」を季刊の予定で再刊いたします。御意見、御要望とともに各種情報の御提供を願います。

「扶桑」発行元

扶桑教大教庁

〒156-0043

東京都世田谷区松原

一七二一

電話 03(3321)0238